
令和 6 年度 第 2 回練馬区子ども・子育て会議議事録

[日 時]

令和 6 年10月16日(水)午後 6 時30分から午後 8 時まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎 5 階庁議室

[出 席 者]

小島委員、清水委員、瀬川委員、ティアコジュイモ委員、小池委員、井上委員、重松委員、土田委員、濱田委員、尾形委員、有村委員、小櫃委員

(事務局)

こども家庭部長、こども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、子ども家庭支援センター所長、学務課長、健康推進課長

[欠 席 者]

檜垣委員、鈴木委員、桑田委員

[傍 聴 者]

5 名

[次第]

1 開会

2 議題

(1) 第 2 期練馬区子ども・子育て支援事業計画の実施状況(令和 5 年度)について

(2) 小学生の意見聴取について

(3) 意見交換

【テーマ：これまでのテーマ全体に関する振り返り】

3 区からの連絡事項

- 【会 長】 令和6年度第2回練馬区子ども・子育て会議を開催いたします。
事務局より、委員の出席状況の報告を行います。
- 【事務局】 本日の出席者は、委員15名中、出席委員12名です。委員過半数の出席を得ておりますので、練馬区子ども・子育て会議条例第6条第2項により、会議は有効に成立しております。
- 【会 長】 続いて、配付資料の確認をお願いします。
- 【事務局】 (配付資料の確認)
- 【会 長】 それでは、議題に入ります。
議題1「第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画の実施状況(令和5年度)について」資料1が出ています。事務局より説明をお願いします。
- 【事務局】 (資料1の説明)
- 【会 長】 ご意見、ご質問等がありますでしょうか。
- 【委 員】 一時預かり事業について、保育園1園が事業を廃止したことが気になります。どのような事情なのか、他でも同じ状況が発生し得るのでしょうか。
また、需要量見込みについて、事業によっては時期による需要量の変動があると思います。需要量見込みに対する実績の検証になりますので、様々な要因を加味して検証ができるような形を取って欲しいです。
- 【事務局】 一時預かり事業について、現時点では事業を廃止する予定の園はありません。
実際の利用実績については、8ページ一時預かり事業の令和5年度部分の需要量見込みは8万4,704人日を見込んでいましたが、利用実績は5万7,405人日でした。目標供給量は、11万4,220人日でしたが、実際の供給量は9万8,388人日でした。この数を見ると、目標供給量には届いていませんが、供給量実績は実際の利用実績を上回っているため、全体としての需要は満たしていると考えています。
一方で、表に用いた数字は1年間全体を通した数字ですので、全てのニーズを満たしているかは、より詳細に検証した上で、第3期子ども・子育て支援事業計画につなげていく必要があると考えています。
- 【会 長】 私から質問します。保育について、目標供給量を達成できているという報告でしたが、各地域や各年齢のニーズに対する対応ができているのか伺います。
- 【事務局】 現状は、地域・年齢ごとのいずれにおいても、保育需要に対して必要な供給量を確保できています。昨年度に続き待機児童ゼロを達成しました。細かく見ると、1歳児と2歳児の需要は高まっている反面、0歳児のニーズは少しずつ下がっている傾向があります。この傾向を踏まえ、0歳児の空き定員を活用した1歳児の受入れ等を行い、既存の保育園を活用した柔軟な定員確保に努めていきたいと考えています。
- 【会 長】 地域ごとに、ニーズ等が異なると思います。利用する保護者に対して丁寧な説明を引き続きお願いします。
続いて議題2「小学生の意見聴取について」資料2が出ています。事務局より説明をお願いします。
- 【事務局】 (資料2の説明)
- 【会 長】 ご意見、ご質問等がありますでしょうか。

- 【委 員】 調査対象を小学３年生と５年生に絞った理由はあるのでしょうか。
- 【事務局】 当初は、小学生全学年への実施を考えていましたが、ご協力いただく学校の先生や子どもたちの負担等を考慮し、低学年と高学年各１学年としました。３年生は子どもの行動範囲も広がる時期として対象とし、高学年は６年生が受験期に当たるため、５年生を対象に調査を行いました。
- 【委 員】 資料２、６ページの「あなたが一緒にいて１番ホッとできる（安心できる）人はだれですか。」について、その他の意見で、「誰もいない、一人でいると安心する、ペットなど」とありますが、例えば虐待などにつながるお子さんもいらっしゃるのでしょうか。
- 【事務局】 選択式のアンケートの中で、その他を選択した場合は自由記入としています。無記名のアンケートのため、回答者に虐待リスクがあるかについては、把握ができません。１人でいることが好きで、回答した子もいると思います。一方で、孤立や孤独につながるケースもあり得るものと考えています。
- 【委 員】 「よく過ごしている場所や安心できる場所」が自分の家であったり、「一緒に過ごしている人や安心できる人」が家族という回答が圧倒的に上位になっていることは、健全な環境で子どもが安心して過ごしていることだと実感でき、とても安心しました。
- 【委 員】 この会議では、毎回、子ども自身がどのように考えているのかという視点が大事だという話が出ている中で、このようなアンケートが実施されたことはありがたいと感じています。子どもたちに時間を取ってアンケートに協力していただいたので、例えば第３期計画に反映していくなど、何かしらのフィードバックがあれば良いと思います。アンケートの回答が計画に反映された、または、小学生の意見や回答をこのような会議で発表したなど、現状だけでもいいので何かしら自分たちの意見によって自治体が変わる、大人が動いてくれているといったことが分かると、より区への信頼などにもつながると思います。
- 【事務局】 今回、初めて小学生本人への意見聴取を実施しました。委員からの意見にもありましたとおり、家が安心するという回答が多い中で、一部、安心できる場所はないなどの回答も見受けられました。そうした潜在的なリスクが懸念される子どもに対して、行政として何ができるか検討していきたいと考えています。
- 子どもたちの様々な意見を踏まえて施策を検討することや、子どもたちの居場所に対する考え方などを、計画の中でも示していきたいと考えています。子どもの意見を踏まえた計画となるよう、引き続き取り組んでいきます。
- 【会 長】 お願いします。
- 【委 員】 先ほど委員からお話があったとおり、このようなデータがあること自体が貴重なもので、ぜひ今後活かして欲しいと思いました。
- 一つ、塾や習い事に関する回答が占める割合が大きいいところが嬉しい反面、小学校の時代で終わってしまうコミュニティーなのかなと思います。小学生から中学生に変わった時に、その安心できるコミュニティーが無くなることを考えると、小学校から中学校にかけて切れ目なく子どものコミュニティーを確保するためにも、行政の連携が必要ではないかと感じました。

【事務局】 子どもにとっての居場所として様々なものが考えられる中で、子ども自身が居場所だと感じられる場所は、恐らくその子自身が決めることだと思っています。

公共施設としては、児童館や学童クラブ、保育園など様々な施設がありますが、こうした場所が子どもたちにとって安心できる居場所の一つになります。また、行政だけでなく民間も含めた居場所づくりが求められており、地域全体で居場所を充実させていくことが重要だと考えています。

【会 長】 子どもたちにとってより良い居場所づくりに、今後このデータが活かされていくと良いと思います。

続いて議題3「意見交換」です。今回のテーマは、「これまでのテーマ全体に関する振り返り」です。資料3が出ています。事務局より説明をお願いします。

【事務局】 (資料3の説明)

【会 長】 本日はテーマ全体に関する振り返りになりますので、過去のテーマから順番に振り返っていききたいと思います。

資料3を参考にしながら、追加のご意見等を含め、議論をしていきたいと思います。まずは、「妊娠・出産期から在宅子育て期の子どもと子育て家庭に大切なこと」についていかがでしょうか。

【委 員】 妊娠・出産期から在宅子育て期は、家で子どもと過ごす2人きりの時間がとても長く、特に第1子の場合は不安で分からないことだらけです。お母さんの場合だとホルモンバランスの影響もあり、どうしてもふさがちになる時期があるので、このような時期にどのようなケアができるのかが1番大事になると思います。

練馬区の場合、実際に家に助産師さんが来ていろいろと助けてくれたことが1番印象に残っています。対面で直接会って行うサポートは今後も重要だと思います。また、そのサポートが1回だけで終わるのではなく、その後も引き続きつながっていけるような、今後も相談しやすい関係が築けるサポートがあると良いと思います。1回助産師さんが訪問して終わりではなく、その方とまた継続して相談し合える関係が築けるような体制があれば良いと感じました。

【会 長】 継続的な支援がとても重要だと思います。

【委 員】 資料3、1ページ目の「育休中も保育園に通える、育休取りたい人は取れる社会を構築していけると良い」という意見について、幼稚園に子どもが通っていて、下の子が生まれて育休に入っているお母さんが身近にいましたが、保育園だと育休中に変わりなく6時まで預かってもらえますが、幼稚園だと延長保育の権利がなくなってしまうそうです。私は幼稚園に子どもを通わせたことがないのですが、このような事情で育休中は子どもが2時に帰ってきてしまうと聞きました。

育休中は休めるというわけではなく、下の子の面倒も見ないといけないため、できれば上の子も育休前と同じように預かってもらえれば良いなという声が周りがありました。保育園を選ぶか幼稚園を選ぶかでそのような部分が変わってしまわないように、幼稚園の先生も大変だと思いますがご配慮いただければ嬉しいと思いました。

【会 長】 お願いします。

【委 員】 以前、こんにちは赤ちゃん訪問から4か月健診まで、間が空いて困るというお話

があったかと思います。練馬区では、2か月児相談が始まりました。生後2～3か月の乳児と保護者を対象に保健相談所で積極的に案内をしています。かなりニーズが高く、利用して良かったという話を聞きとても良いと思いました。この2か月児相談の制度について、ここでアピールできれば良いと思いお話しました。

【会 長】 このように形になっていくと、とても嬉しいと思います。

【委 員】 先ほど、意見が出ました育休中の延長保育の利用についてです。私は練馬こども園を運営していますが、育休中にお子さんを預けるかどうかは、最終的に保護者の判断に委ねられるケースが多いと感じています。私の園では11時間の預かりを行っています。子どもたちにとっては、育休中のお母さんが早く帰ってくることが、とても幸せなことだと思っています。ただ一方で、育休中だから預けないということはないようです。

また、育休の期間を利用してプレ保育に通っている方もいらっしゃいます。先ほど委員からもありましたが、柔軟性がとても大事だと思います。様々な選択肢があり、保護者がご自身の状況に合った利用方法を選べるのが重要だと思います。

ただし、練馬こども園の場合はありませんが、学年ごとに定員が決められているため、定員を超えないように調整する場合もあります。その際は、優先順位が決められる可能性があるかもしれません。

【会 長】 詳細なご説明ありがとうございます。

【委 員】 このような意見交換が、これから出産を考えている人や今後もさらに妊娠するきっかけにつながるかと考えています。事業主代表という立場でこの会議に参加していますが、企業として、仕事にもう一度カムバックできる状態をつくるのが使命だと思っています。

子どもがいると本当に楽しいです。子育てをしていると、当然、辛い、しんどい、孤独だと感じることは、一時的にはあると思いますが、子育てがとても楽しいということ、伝えていくことができる文化を作れないかといつも思っています。子育てだけでなく、妊娠・出産についても終わってしまえば、あんなに楽しかったということがあると思います。

【会 長】 お願いします。

【委 員】 妊娠・出産を含めた子育てが楽しいことだと伝えることは、とても大事だと思います。少し大きな話になってしまいましたが、戦後、自由と個人主義が非常に価値あるものとして強調されてきました。その中で、結婚は不自由になることであり、さらに子どもを出産するともっと不自由になるという考え方も出てきました。ですが、その不自由の中にこそ、喜びや幸福感が得られるということ、どのように子どもたちに伝えていくかが非常に重要だと思います。

また、地域で乳幼児期の子どもが歩いている姿や、お父さんがベビーカーを押して散歩している光景を見るだけで、おそらく誰もが幸せな気持ちになると思います。そうした意味で、地域に常に子どもがいるような街づくりを進めるためにも、中高生に子育ての楽しさや喜びを学ばせることはとても大事だと思います。

現在、1人っ子や核家族が増えています。昔は、赤ちゃんをおんぶしている子どもが街にあふれていましたが、現代ではなかなかそういうことはありません。私の

親は6人兄弟で、従兄弟が十何人もいましたが、今ではそのような家庭は珍しくなりました。だからこそ、学校で子どもたちに子育ての経験をさせることや、例えば、小学校と保育園で連携し、保育園にいる小さな子ども達の面倒を小学生が見るなどの取り組みも大事なことでないかと思います。

私は、少子化問題は、こうした視点から取り組むべきではないかと考えています。社会をより豊かにするためにも、子どもが減っていくことは社会にとって不健全だと感じています。

【委 員】 今、平常時の子育てについてお話があったと思います。一方で、地震などがあった時に、避難所などで、おむつなどの備蓄や授乳のためのプライベートな空間などについて、何か練馬区で公表しているのでしょうか。例えば、備蓄や安心して避難所で子育てできるなど周知しているのか伺います。

【委 員】 私の幼稚園では、3日分の食料などを備蓄するように言われており、補助金でそれらを確保しています。恐らく、保育園もそうではないのでしょうか。

【事務局】 保育園についても、3日分の備蓄をしています。

【事務局】 備蓄品として、ミルクやおむつについては配備されています。必要に応じてローリングストックという形で、子ども家庭支援センターで期限前の備蓄品を活用しています。区立施設や子ども家庭支援センターで一時預かり等を行っているため、一定程度の備蓄品は用意しています。

また、授乳スペース等についても、避難拠点において検討等を重ねながら対応していると聞いています。様々配慮をしながら進めているというのが現状です。

【会 長】 災害時の対応についても重要です。

【委 員】 子どもを社会全体で育てる環境を作っていくことが大切だという意見があったことが、子育てをしている身としてはすごく嬉しいし、ありがたいと思っています。ただ、SNSなどで子持ち様と言われたり、会社でも妊娠したらみんなに迷惑をかけるのではないかと、バスや電車に乗るとうるさいという目で見られているのではないかなど、どうしてもそういう気持ちで子育てしてしまっている部分があります。そのため、温かい声をいただくと本当にありがたいです。実際に練馬区で子育てをしていて、嫌な思いをしたことがないので、温かい目で見守ってくれている方が多いのかなと感じており、すごく嬉しく思っています。

先ほど、練馬こども園の預かりのお話がありました。私も練馬こども園の幼稚園に子どもを預けていて、今育児休業中ですが、預かりを利用しています。私の場合は働いているので2号認定です。そのため、預かりを利用すると補助金が出ますが、働いていない専業主婦の方は、その補助金が出ません。今、私は育児休業中で仕事をしていないため、専業主婦の方と同じ状況で子育てをしているにも関わらず、私だけ補助金が出ていると、どうしても申し訳ない気持ちになります。

仕事をしながら子育てをしています。仕事をしているからか、どうやって育児をアウトソーシングしていくのかを考える癖がついているような気がします。一方で専業主婦の方たちは、何とか自分の手で子どもを育てていくという気持ちが大きいような気がします。幼稚園にもおんぶやだっこをして、子どもを預けに来ていたり、2時頃に昼寝中の子どもを起こして連れて帰るお母さんたちもたくさんいます。

そういう方たちにもサポートが行き渡るように、仕事をするかしないかどちらも選べて、どちらの状況でも子育てしやすい環境になって欲しいです。

【会 長】 乳児期、幼児期の子ども・子育てに意見が移ってきたかと思います。本日は全体を振り返っていくということで、続いて、「乳児期から幼児期の子どもと子育て家庭に大切と思うこと」に焦点を当ててご意見をいただければと思います。

お願いします。

【委 員】 息子が今年で、3歳と半年になります。この会議に参加した時は2歳で、初めて保育園に預けた状態でした。この会議で一番言われていたのが、保育の質についてだと思っています。少なくとも私の子どもが通っている公立保育園には、非常に感謝をされていて本当にいい子に育っていると思います。

特に印象に残っていることが2つあります。1つ目は毎日のコミュニケーションです。2歳の時は連絡帳に毎日、保育士の皆さんからコメントをもらっていました。また、3歳になると、クラス単位での連絡に変わりますが、それでも適宜個別に連絡帳にコメントをもらったり、迎えに行くと様子を教えてもらえます。非常にしっかり見てもらっていて、可愛がっていただけていることを感じています。

私の子どもの場合、少し人見知りな部分と、2歳から転入しているため、馴染むまでに時間がかかりました。挨拶することを、一つのテーマとして育てていたのですが、初めて挨拶ができた時に、担当ではない保育士の方が、ちょうど出勤のタイミングで子どもの挨拶を聞いていて、初めて挨拶ができたことを伝えた時に、すごく褒めてくれました。そこから子どもが挨拶を自分からできるようになりました。このように、何かのきっかけに気づいてもらえることが非常に大事だと思っています。働いている我々保護者が気づく機会を逃した部分に、気づいていただけることを本当に感謝しています。

そうした中で、何かのきっかけに気づける保育士自身の心のゆとりが大切ではないかと思います。保育士は子どもの状況を見ながら、連絡帳の返信など様々な事務的な作業を行う必要があります。加えて、シフト制なので各保育士がバラバラのシフトの中で、運動会などのイベントは担当同士ですり合わせを行う必要があります。一方で、事務所は非常に狭くて、パソコンも1人1台ないような状況の中で保育が行われていると思います。

非常に緊張感が高い状況で、かつ、女性が多い職場となると、ライフステージによってシフトの調整が難しいことや、恐らく時短勤務で職場復帰するような感覚が無い中で、保育士がどうしても仕事を辞めざるを得ない状況もあると思います。

今回、資料3の3ページに「国基準以上に手厚い人員配置ができると良い」という記載があります。どうしても処遇に焦点が当たっていると思いますが、どちらかというと今後は働く環境を整備していく必要があると思います。保育士自身のライフステージもありますし、体調を崩した時も、法定の保育士数を維持しなければならないという難しさもあると思います。そのためには、一定程度の人員的な余裕も必要になるのではないかと感じています。

2つ目になりますが、法定の保育士を維持する際に、民間に委託している保育園でもそれができるのかという問題もでてくると思います。特に今、物価が上昇して

います。新聞などでも、価格の転嫁が不十分だという意見が8割を超えて、今後もまだ物価が上昇する中で、かつ、業界は賃上げをし、それを満たしていくために、民間の委託先のほうが経営のビジネスモデルの変更を行うようなことになりかねないのではないかと考えています。

特に保育園は、保育人数が決まってしまうとそれ以上の収入が見込めない中で、コストを削減する方向になってしまうと、結果的に保育の質が下がってしまうのではないかと危惧しています。保育士の皆さんが、心のゆとりを持てるような環境整備を支援し、今の良い保育を継続できるようにして欲しいです。

【委員】

練馬区は子どもの支援など様々な行政サービスがとても充実していると感じています。ただ、それを知らない人も多く、実際に自分も、もっと早くから知って利用したかったサービスが多くあります。一方で、練馬区が情報発信をしていないわけではなく、ホームページでもたくさんの情報が公開されています。また、アプリやハンドブックなどもあり、かなり充実していると思います。それなのになぜ、自分を含めサービスを知らない人が多いのかを考えた時、情報がたくさん並んでいる中で、自分にどれが必要なのかが分からないことが、1番の要因ではないかと思いました。

例えば、専業主婦だったらこのサービスが利用できる、フルタイムで仕事をしていたらこの支援を活用できるなどのロールモデルを提示し、自分の場合はどのサービスが利用できるのかが分かるような情報の公開や発信の仕方をしていくと、自分自身の子育てに活かせるサービスや支援などが分かりやすいと思います。情報があまり過ぎてピックアップしづらい部分があるので、どんな人に何が必要なのかを精査した形で情報を受けられるようなシステムや発信の工夫があると、サービスを活用しやすくなると思います。今ある充実したサービスを、より多くの人に、うまくマッチングできる方法を考えていければ良いと感じました。

【副会長】

私も練馬区で子育てをしており、子どもは全員幼稚園に通っています。特に1番下の子どもは児童発達支援を使っていました。委員から情報を上手く得ることが難しいという意見がありましたが、幼稚園では情報をみんなに一斉に送っており、私は、子どものお迎えの時に他の保護者と話して、横のつながりで情報を得ていました。

特に障害に関して、横のつながりを通して、ユーザー目線で情報を共有してもらえることが非常に良かったです。利用できるサービスについて情報交換もありました。そのような横のつながりでの情報共有を後押ししても良いと思いました。

障害に対して、3月の報酬改定で、保護者のピアサポートに加算がついていますが、やはり保護者同士のコミュニティーを育てることは、一般の方だけだと手が回らない部分や、情報源が保育者の方とのやり取りになることもあると思います。そういう部分でも何か工夫できるのではないかと感じました。

【委員】

保育所の待機児童ゼロを達成していることについてですが、練馬区は、保育園に入ることが厳しいエリアだと体感では感じています。1歳児での入園が難しく、区が1歳児1年保育やベビーシッターの補助など様々な取組をしていることも知っていますが、それでも、1歳では10個以上の保育園に入れず延長保育をしている保

護者に子育てのひろばなどで出会うことがあります。様々な措置を取っていても、なかなか希望の園には入れないという体感があります。だからやはり0歳児のうちに、もう少し子どものそばにいたいけど預ける人もいることを感じています。

ただ、この地域でもどんどん戸建てができたり、マンションができたり、子育て世代が住みやすいという練馬区なので、人が増えていくのも理解できますし、保育園が追いつかないのも理解していますが、難しい問題であると感じています。

【会 長】 よろしくをお願いします。

【委 員】 機児童ゼロについてです。平成11年にはエンゼルプランという少子化対策がありました。それがいつの間にか、保育園を増設し、保護者が働ける環境を整えれば少子化は解決すると考えられるようになり、「待機児童ゼロ」を目指す施策が始まりました。しかし、子どもは減り続けています。私は、この30年間、子育て世帯が1つも豊かになっていないと感じています。

私が長年、言い続けているのは、経済的な支援です。例えば、子どもが生まれたら等しく毎月10～15万円給付します。保育園に預けて仕事をもっと一生懸命頑張りたいという方はそのうちの10万円を保育園に支払い、手元には5万円を残します。一方で、専業主婦として子育てに専念したい方は、15万円全てを手元に残すことにすれば、生活が困窮し、パートでも働かないと生活できない家庭が減ると思います。そうすれば、パートで働かざるを得なかった方も育児に専念でき、待機児童もいなくなるのではないかという持論を持っています。おそらく、国や東京都、区もそういったことは全く考えていないと思いますが、私はこうした経済的な支援が根本的な少子化の解決の一つになると考えています。子育ては経済的な余裕が必要です。生活する上でも豊かさは大事だと思います。

私は、子育て世帯が元気にならないと景気も回復しないと思っています。そもそも待機児童の解消だけを目指すのではなく、保育の質と家庭環境の向上、そして家族の豊かさを求める政策に切り替えてほしいと願っています。

【会 長】 ありがとうございます。では続いて最後になりますが、「学齢期以降の子どもと子育て家庭に大切と思うこと」について、これまでを振り返りつつ、さらにご意見がありましたらお願いします。

【委 員】 先ほど居場所の提供などの話もあったかと思いますが、区では様々な事業を行っています。例えば私自身が子どもの時も、区が実施している料理教室や科学実験体験、和紙作りなど家庭で体験するのは難しいけれど、区が提供する場があれば親としても参加できてお金もあまりかからないような場で体験をしていました。居場所というよりもイベントのような機会の提供になると思いますが、決して難しいことではないと思うので、家庭でできないことを体験できる機会を提供してほしいです。親としても、料理の手伝いをさせる時は包丁を使うと結構はらはらしますが、それをプロの先生と一緒にやってもらうだけでも、子どもに対しての手伝いの頼み方などの新しい発見があると思うので、ぜひそのような機会の提供を区で継続してほしいと思います。

またイベントでも、農業祭や練馬まつり、国際交流フェスタなど新しいものに触れることで、刺激になったことも記憶に残っています。今まで議論されてきた居場

所は、継続的な場所でしたが、イベントのような機会も大切にして継続して取り組んで欲しいです。

もう一つ重要だと思っていることは、特に小学校の高学年から中高生になると、単に自分が与えられるだけではなく、社会に対して自分がどのように貢献していくのか、人の役に立つ経験をすることが非常に大事だと思います。私自身も中学生ぐらいの時に友達とボランティア事業に参加していました。夏休みに保育園や障害者施設でのボランティアや老人ホームで交流をしていました。区が提供する機会だからこそ、親も安心して、参加していいよと言ってくれたのだろうと、今振り返ると思います。

今の子どもたちにもそのような機会を提供し、自分も社会にお役に立てるような場や機会を提供することも区にはお願いしたいです。これは、継続的に取り組んでいただきたいと思っており、イベントなどがコミュニティーにもつながり、どんどん子育てしやすい環境にもつながっていくと思います。

既に区で実施しているイベントはたくさんあると思います。一方で、先ほど委員の意見でもありましたが、周知の部分が非常に大切だと思います。区報でイベントを探すことは結構難しいです。時間を取って、自分に必要な情報を探すことは非常に難しいので、アプリのプッシュ型通知を活用した情報の周知がとても参考になります。また、今後は子育て世代が行く場所に、周知ポスターや今月のお薦めイベントなどを定期的に掲示すると良いと思います。

例えば、小児科やクリニック、保育園、幼稚園、学童など必ず親が来る場所、また、ドラッグストアや大型施設の赤ちゃんスポット、フードコート内の子どもが遊べる場所などに掲示して欲しいです。親と子どもが集まる場所は割と決まっていると思います。商業施設などの協力も必要だとは思いますが、是非そういうところを活用して周知をして欲しいです。

また、おむつを替えている時や、子どもが脇で遊んでいる時が、親も余裕があるタイミングでもあります。まちの中に掲示板はありますが、自転車に乗っている時や、子どもの安全に気を使って手を引いている時は、掲示板を見ることは難しいです。掲示板1つ取っても、公園の外向きに張っていますが、公園の中向きに張ってもらったほうが、公園で子どもを見ながらポスターを見ることができます。親がどのような景色を見ているかなどを意識したユーザー目線の周知を行うことで情報が伝わりやすくなると思います。

【会 長】 お願いします。

【委 員】 小学1年生の4月の居場所についてです。私の子どもが1年生の時、私は15時まで仕事をしていました。この時間は、ぎりぎり学童に入ることができる基準をクリアできるかできないかのところです。また、当時は4週で16日仕事をしているという基準を満たさないと学童に入れませんでした。

私の場合は、職場にお願いしてシフトを16日入れてもらい、何とか学童に入れました。9月に学童を辞めて、今はひろばに行かせているという状況です。逆に14時に帰っているお母さんだと、4月だけ子どもの居場所がないという方が多く、その間は仕事を休まなければならなかったり、祖父母がいない場合は、友達同士で預か

り合ったりしています。特に、4月は授業が午前中だけの日がほとんどです。非常に多くの課題が残っているのではないかと思います。今後、どのような方向性で話が進んでいるのか伺いたいです。

【事務局】 今、全校でねりっこクラブの実施を進めています。学童クラブに登録していなくても5時までは学校で過ごすことができるひろば事業を進めており、あと2年ほどで全校実施ができると考えています。その中での課題が、先ほどお話しいただいた、1年生のひろば利用の開始時期です。学校のスケジュールなどの都合もあり、5月の連休明けから利用を開始する学校がまだ多数あります。

一方で、まだ少数ですが、入学式の翌週ぐらいからひろばの利用を開始する学校もあります。小学校の校長会などで、ひろばの利用開始時期を最低でも4月からスタートできるように調整を進めています。今後の方向性としては、お声に応えられるように、まずは、学童に入らなくてもひろばで過ごせるよう取組を進めています。

【委 員】 取組が進んでいるようで、意見が反映されていることが分かり、ほっとしました。ありがとうございます。

【委 員】 先ほどの委員の意見について補足です。私は、民設民営の学童クラブとして認可をいただき、学校外のところで学童クラブを運営しています。私の運営している学童クラブでは、保護者の勤務時間の審査基準を13時にしています。その理由は、練馬区では、遅い時間からしか預かれないような規定になっていると思いますが、現状、練馬区の小学校に通っていると結構早く帰ってきます。先ほど委員の意見でもありましたが、4時間目までの時が、4月以外でも結構多いです。スポットで働いている方の子どもを預かることができる場所が本当にないと感じています。

ひろばで預かることができれば良いですが、恐らく1年生のお子さんだと、自由に行き来はできますが、学童と違って管理をしているわけではないので、そのような不安はあるのかなと思います。学校以外にも近隣に民設民営の学童クラブがあるかもしれないので、参考にいただければと思います。

【会 長】 情報をありがとうございます。

【委 員】 小学生の居場所づくりについてお話が出ました。学童に入れない子がたくさんいることについて、ひろば事業は最低賃金法に従いながら区の手当てが出ているため、学童だけでなく、ひろばにもスタッフはしっかりとついているのかなと思います。

一方で、実施している曜日や、夏休み、冬休みなどの長期休暇期間の事業実施の状況などは学校ごとに差があります。まだ全ての学校が同じように対応できているわけではないと思いますので、そのあたりもしかりとできていけば良いと思います。

また、「支援を必要とする子どもや家庭への取組」の 人材についてです。保育や福祉関係だけでなく、社会全体として人材不足になっていて非常に厳しいものがあります。特に保育園は、一般の企業と違い配置基準が決まっています。大企業だと、退職や産休などの予定を考慮したうえで人材を雇うことができます。

例えば、企業によっては、年間で10人辞める状況が毎年あれば、その分の人材を最初に確保しているところもあります。一方で保育園や福祉関係の業界は、配置基準が決まっており余分に採用していません。そこで、急に職員が産休や育児休業を

取得すると、なかなか人員の補充ができません。以前は途中で採用もできましたが、最近はほとんどできません。そのため、欠員状態のまま次年度の4月まで採用を待たなければなりません。また、4月になっても、必要な人材が全員確保できる保証はありません。

そのことを職員は分かっているのに、保育や福祉関係の業界に勤めている方は、迷惑をかけるのではないかと、他の職員に負担がかかるのではないかと考え休みづらい現状もあると思います。負担感は業種によって違うかもしれませんが、保育園も幼稚園も学校も職員の補充が難しく、学校によっては職員が休みを取ると、代わりに校長先生が授業しなければならないような状況に陥っています。配置基準以上に人材を確保できるような体制が必要だと思います。

人材対策の中で、処遇改善の手当の出し方が非常に使いづらいということが言われています。例えば、チームリーダーは、何か研修を受けると給料が月々4万円プラスになります。これだけ見ると、給料が非常に上がったような感じがしますが、次年度、人事異動でチームリーダーでなくなった時、給料が4万円下がります。それが、使い勝手が非常に難しいといわれるところで、根本的な給与アップになっていません。横の異動がなかなか難しいという問題も出てくると思います。そういった点でも、非常に勤めにくい職場だと思われ、人材確保に影響が出ると思います。良い人材を確保するためには、しっかりとした職員の処遇改善がなされないと難しいと思っています。

最近、結婚したくない、子どもを産みたくないという若者が、非常に増えています。先ほど委員からもありましたが、現在子育てをしている人を見ると、不自由に見えて、それが不幸に見えているのではないかと思います。ただ、不自由なことが不幸ではありません。もっと結婚や子育てに対して幸せなイメージを持つことができる、憧れることができるようにするべきだと思います。そのためには、結婚や子育てをしている人が、幸せそうな顔して生活しているところを見せていく必要があると思います。保育園に入れることにも大変な思いをして疲れ切っているような、様々な苦勞をしている姿ばかり見ていると、若者は結婚して子育てをするよりも、今の給与を全部自由に使える生活のほうが幸せとってしまうのではないのでしょうか。子育てをしている人が余裕をもって幸せに見える雰囲気をつくっていく必要があると思います。

【会 長】 お願いします。

【委 員】 学童クラブを運営していると、最近、児相案件が非常に多くなっていると感じます。障害を持っている子どもを預かる際には、人員を通常より増やして配置する加配が行われますが、児相案件の場合は加配がありません。一方で、そのような子どもの話を聞くことや児相につなげる必要があります。また、子どものいる時間帯に児童相談所の職員が面接に来ることもあり、先生や職員が子どもに付き添ってサポートする必要があります。

学童クラブでは、1支援単位40名の子どもに対して職員が2名配置されています。その中で、職員が児相案件の対応に1名取られてしまうと、職員1名で40名の子どもを見なければならず、怪我をする子どもの対応や、子ども同士の喧嘩の仲裁など

に対応する必要もあります。今後新しい支援の在り方としてこのような問題にも焦点を当てていく時代ではないかと思います。

様々な家庭の形があり、様々な子どもがいます。子どもが話しやすいと感じているのか、学童クラブの職員に相談をしてあげることがあります。そういった子どもの話を聞き、継続して子どもを見ていくためにも職員が必要ではないかと痛感しています。

【会 長】 よろしくをお願いします。

【委 員】 練馬区は児童館などが充実しています。一方で、子どもの体験格差が生じていることを感じています。特に、夏休み明けなど、裕福な家庭の子どもは、どこかに出かけた話をしますが、その会話に入らないようにしている子どももいます。そのような子どもは、夏休みもひろばに来ており、どこにも出かけていないのではないかと思います。このような体験格差がなくなるように、先ほど委員の意見でもありましたが、区が様々なイベントを行っていることを多くの場所で周知するなどして、無料で子どもたちがたくさんの体験ができるイベントを実施して欲しいです。

私自身も、ひろばで工作ウィークを設けています。季節に合わせた企画や、ひろばのお祭りの際に様々なイベントを実施しています。一生懸命告知をしていますが、来ていない子どももいます。今後は、体験格差が生まれないような社会になって欲しいです。

私は1人っ子できょうだいと遊べなかったため、子どものいるところに親が連れていってくれました。積極的に遊ばせてくれたことは今もありがたいと思っています。お金がかかるような体験だけでなく、お金がかからない体験機会が児童館などにあることを、区でもっとPRして欲しいです。

夏休みに海外に行かなくても、もっと近場で水遊びをする楽しい体験ができれば、それが子どもの心に豊かな体験の記憶として残ると思います。お金がかからない体験機会の提供やその周知をもっとして欲しいです。

【会 長】 副会長からも意見を頂戴できればと思います。をお願いします。

【副会長】 日本では仕事をしている人はだいたい同じ時間帯で就労する体制をとっています。例えば、男性と女性で働く時間を約3時間変えることや、就労時間を1時間短くするだけでも親が子どもに接する時間を増やすことができます。

そうすることで、子どもを遅くまで預かる問題が起きなくなると思います。ただ、それを区だけでなく、企業や国全体でやっていくにはまだ時間がかかると思います。その中で、どうやって子育て家庭を支えていくのかが、大きな課題だと思います。

お金のことも大事だと思います。子育てそのものの豊かさや楽しさを、どのように伝えるかが大事だと思う一方で、世界を見ると様々な国の出生率が落ちてきています。この要因は私自身もまだしっかり分析ができていませんが、委員の皆さんの意見を聞き、今後こういった方向に進んでいけばいいのかと改めて考えたところです。

人のつながりはとても大事だと改めて思います。学生が仕事辞める時は、仕事の大変さよりも人間関係が原因で辞めていくことが多いです。また、早めに仕事を辞める子は、自分自身がファッションを身に着けるように、職場もここだと自分らし

くできないなどの理由で辞めていきます。実際は、様々な人が若手職員を支えています。それがなかなか通じない部分もあります。

一方で、非常に勤務年数が長い職員も存在します。この差の要因を考えた時、組織だけでなく、職員同士の人間関係をいかに良くするかが大事だと改めて感じています。

加えて、人と人のつながりが非常に大切で、例えば、発達がゆっくりな子どもに関して、遊ぶ場所や友達とのつながり方などにも課題があります。その時に、幼稚園などで一緒だった人たちが小学校でも一緒に、お互いに情報交換しながら継続して関係を構築していると高校生になっても遊べます。子どもや大人、支援をする方々がつながり、お互いに支え合う余裕があると良いと思います。その空間をどのように作っていくかが課題だと思います。

子育ての楽しさや喜びをどのように伝えていくかについて意見がありました。それも大事なことだと思います。子どもを通じて人とつながっていくことができる場合もたくさんあると思うので、そこをうまく活かすことや、楽しいと言い合えるような場所をどのようにつくっていけば良いのかを改めて考えていました。

【会 長】

ありがとうございます。

最後に、私も少しお話をします。今日はこれまでの意見交換テーマ全体を通しての振り返りをしつつ、さらなるご意見をいただきました。妊娠期から学齢期、そして支援を要する子どもと子育て家庭に大切と思うことを通して、様々な意見が出ました。

子どもは点で見るのではなく、継続して育っていきます。生まれて幼児期があり、学齢期があり、中高生になっていきます。そこが切れ目なくつながっていく必要があると思います。私は乳幼児の保育が専門ですが、その時期の子どもも、必ず小学生になり中学生になります。子どもが、子ども期を楽しく過ごしていくことが重要だと考えた時、今日は子どもの成長過程全体を通して意見をいただけたことが、とても学びになり良かったと思っています。

長期的な視点で子ども・子育てをどのように考えるかという話と、今困っていることや今後こうなっていけば良いという今の視点の両面で意見があったと思います。どうしても今という部分に目が行きやすいですが、長期的な視点を持ってこんなふう子どもと過ごせれば良いな、こんなふう子育てできたらいいな、という視点を持ちながら、今をどうするかについて話し合われた点もとても良かったと思います。子育てはもちろん大変なことがたくさんありますが、本来楽しく幸せなことで、これがなくては人間がなくなってしまうものであることを、この会議の中でも確認できました。

私は今、保育者養成をしています。これから幼稚園の先生や保育士になりたいという学生がたくさんいます。今、保育士離れ、保育者離れと言われるぐらいに、子育てもそうですが若者が保育の仕事を少し敬遠するようになってきた現実があり、とても憂えています。私自身も保育の仕事をしていたが、保育の仕事は本当に楽しく、こんなに幸せな仕事はないと学生に伝えていますが、今の若者たちにはそれがなかなか伝わらない現状もあり、試行錯誤しています。一方で、学生たち

は子どもに触れ合うと、かわいいな、すごいな、子どもってこんなに力があるのだと実感します。これはお父さん、お母さんもそうだろうと思います。

このような時間をいかにつくっていくかが大切で、このような時間がたくさんあると、きっと子育てや保育が楽しくなると思います。一方で、今その時間が、生み出しにくい社会になっています。そこは長期的な視点として、どのようにその時間を生み出していくか、私たち大人の生き方が問われているのではないかと思います。これは長期的に考え続けていくテーマだと思います。

加えて、今という視点では、柔軟性と継続性という言葉がキーワードとして心に残っています。柔軟性を持って、様々な家庭や子どもに対応できるように、また、継続的に対応していくこともとても大事だと思いました。貴重な意見がたくさん出たので、この意見が活用されれば良いと思っています。皆様、ありがとうございました。

【事務局】 本日も委員の皆様には活発な意見交換を行っていただき、本当にありがとうございました。昨年7月に第1回の子ども・子育て会議を開催し、以降、本日を含め5回にわたり、妊娠・出産期から在宅子育て期、そして乳児期から幼児期、学齢期以降、さらに支援を必要とする子どもや子育て家庭への取組についてご意見等をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

並行して、区では、次期計画策定に向けた基礎資料とするためのニーズ調査を実施し、また、本日もご報告いたしました。第2期計画の検証などを進めてきました。これまで委員の皆様からいただいた貴重なご意見や、ニーズ調査等の結果、また、国や都の動向等を踏まえ、子ども・子育てに関する様々な課題に対応するために、令和7年度から11年度までの5か年を計画期間とする第3期の子ども・子育て支援事業計画の策定を進めています。委員の皆様には引き続き、区の子ども・子育て施策および当会議へのご理解とご協力をいただきますよう、改めてお願い申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。

【会 長】 ありがとうございました。最後に、事務連絡をお願いします。

【事務局】 次回会議について、11月20日（水）18時半からの開催を予定しています。改めて開催通知を送付いたします。

【会 長】 以上を持ちまして閉会いたします。ありがとうございました。